

11月2日(日)、アミューズメント佐渡を会場に、「ワンダーアイランド佐渡―3つの宝物をもつ島を知る―」が開催され、シオンポジウムと体験コーナーにあわせて約500人の市民が参加しました。



平成29年度の世界遺産登録を目指している「佐渡金銀山」、世界ジオパークへの加盟を目指し、平成25年9月に日本ジオパークに認定された「佐渡ジオパーク」、平成23年6月に日本で初めて認定された「世界農業遺産(ジラス)」という佐渡の3つの宝物について、市民の皆さまに広く知っていただくとともに、3資産を連携させて佐渡の魅力が島内外に発信し、世界

遺産登録に向けた機運の醸成を図るため、今回初めて開催されました。

基調講演では、九州大学名誉教授の井澤英二氏を講師にお迎えし、「世界金産史の中の佐渡金山の特徴」と題して、世界遺産登録に向けた佐渡金銀山の魅力と課題についてご講演いただきました。

パネルディスカッションでは、コーディネーターとして渡邊剛忠佐渡学センター所長、パネリストに井澤英二氏と新潟大学名誉教授の島津光夫氏、国連大学の永田明氏から、「佐渡の成り立ちを3資産から考える」と題して、それぞれの専門的な立場から、3つの資産の魅力や連携についてご意見をいただきました。



# ワンダーアイランド佐渡

## —3つの宝物をもつ島を知る—

聞いて!  
触れて!  
楽しんで!

同時開催の「展示ブース」では、佐渡で作られた小判や佐渡金山で最後に採れた金塊、3つの資産に関するパネルの展示が行われ、「体験コーナー」では、砂金採り体験、金塊つかみどり体験、化石レプリカ作り体験、勾玉作り体験が行われ、多くの親子連れなどで賑わいました。



砂金採り体験



金塊つかみどり体験

佐渡の大地や金銀山の成り立ちについてジオパークで学び、金銀山の発見と採掘の歴史について世界遺産登録によって発信し、金銀山の発展にともなう人口増加によって水田が開発され、能や鬼太鼓などの伝統文化が広がり、トキとの共生や生き物を育む農法が生まれ、最後までトキが残る島となったというストーリーを、今後は3つの資産を連携させて事業を展開していくことにより、島内外に広く情報発信していきます。



最後の佐渡産金塊



元文佐渡小判